

「一九四六」王希奇（魯迅美術学院教授）

神戸展のお知らせ

神戸展実行委員会事務局長 宮原信哉

日 時 2022年8月31日（水）～9月4日（日） 10:00～
18:00

※最終日は15:00まで

場 所 兵庫県立原田の森ギャラリー本館2階大展示室（神戸市王子公園
隣）

入館料 大人1000円（前売りも同じ） 大学院生・大学生以下無料

神戸展 HP➡一九四六神戸展 検索可

<https://free.yokatsu.com/koube/>

日中国交回復50周年記念神戸絵画展のロゴマークを制作しました。国交回復50周年を超え、人類運命共同体の一員として、お互いに隣国を敬おうとの思いです。「日中敬隣」と「Love & Peace & Humanism」は神戸絵画展のスローガンです。



「一九四六」王希奇（魯迅美術学院教授）神戸展開催趣意書

今回、神戸展を企画した主な理由としては、以下の三点になります。

一点目は、中国を代表する国民作家「魯迅」にちなんだ「魯迅美術学院」の王希奇教授の大作「一九四六」には、戦争被害者や社会的弱者への思いが込められています。この大作の展覧会を、日中友好の思いを込め、中国残留日本人関係者や華僑の方々も大勢いらっしゃる阪神地区で開催したいという思いからです。

二点目は満蒙開拓や旧満州（中国東北部）からの引き揚げの歴史を忘れてはならない思いと、併せて戦争がもたらす被害と加害の実相をお伝えしたいからです。

三点目は、2022年は日中国交回復50周年の節目の年柄です。1972年9月29日に、田中角栄首相と中国の周恩来首相の間で調印されました。神戸展では9月開催に拘りました。日中不再戦・恒久的日中友好を心に刻み、周恩来首相の「前事不忘 後事之師」（前事を忘れざるは後事の師なり）も忘れてはならない思いです。

以下まとめました。

第二次世界大戦が終わった後、旧満洲（中国東北部）にいた日本人約155万人（軍人を除く）は、過酷で悲惨極まりない状況におかれていました。翌年5月頃から漸く日本への帰国が始まり、中国遼寧省葫蘆（コロ）島港からは、3年間で約105万人が日本に引き揚げました。その葫蘆島港での引き揚げ者の写真集の中に、「骨箱を抱いた男装の少女」を目にした中国人歴史画家・王希奇先生（2022年3月現在61歳）は、自らの心の葛藤を乗り越え「戦争ではいつの時代も弱者が苦しむ。彼らも戦争の被害者だ。」という強い思いのもと、油絵と墨絵の融合による独特の技法で、米国の引揚船に乗込もうとする憔悴しきった数百人の難民の姿を描き出しました。作品は縦3m×横20mに及ぶ大作で、歩きながら鑑賞すると難民の一人になった気持ちになります。そこには作者の強烈的な平和への願いが感じられます。

日本国内での絵画展は、東京都港区（東京美術倶楽部 2017.9.28～10.5）、京都府舞鶴市（舞鶴引揚記念館 2018.9.28～12.2）、宮城県仙台市（宮城県美術館 2019.10.1～10.6）、高知市（高知市文化プラザ 2021.11.28～12.5）と過去四回開催されました。2022年神戸展は日本国内で5回目の開催となります。

さて、終戦直後の満州国の日本人たちは、徒歩や極めて少ない貨車などで逃避行を続けました。途中旧ソ連軍や現地住民の襲撃を受け、多くの死傷者が出ました。また、集団自決などの悲劇も生まれました。辿り着いた日本人収容所では、零下30度を超える真冬を越すことになり、餓死、凍死、病死など多くの災難に見舞われました。こうした中で親の死や離別によって、「中国残留孤児」や「中国残留婦人」と呼ばれる人が生まれました。

中国残留日本人問題研究の第一人者であり、中国「残留日本人孤児」を支援する兵庫の会代表世話人でもある神戸大学名誉教授の浅野慎一先生には、当HPへの資料提供を頂くとともに、満蒙開拓と中国残留日本人の全体像が分かるパネル展示について助言を頂きました。絵画展に併せて、神戸市の名門進学校灘中学高校での出前授業など、様々な取組みも予定しています。

2022年は満州事変勃発91周年、日本引き揚げ開始76周年、そして何よりも「日中国交回復50周年」の記念すべき年です。中国残留日本人関係者や華僑の方々々が在住してお

られる阪神地区で、中国革命の先駆者・孫文が亡命生活を送った神戸で、王希奇先生の作品展を開催することは、大きな意義があると考えています。どうか趣旨をご理解賜ります様、心よりお願い申し上げます。

ご寄付のお願い

「日中敬隣」と「Love & Peace & Humanism」をスローガンに、日中国交回復 50 周年記念としての絵画展を、中国とも馴染みの深い神戸で開催します。搬送費や会場費などを勘案致しますと、概算で 300 万円近い費用がかかります。

大学院生以下を無料とし、一般の入館料は 1000 円に抑えました。神戸展を成功させるには、皆様のご支援をお願いいたします。皆様から頂いたご寄付につきましては、趣旨を踏まえ大切に活用させていただきます。なお、当実行委員会へのご寄付は、税制上の優遇措置の対象となりませんのでご留意下さい。

①名義

「一九四六」神戸展実行委員会

②口座番号

池田泉州銀行 逆瀬川（サカセガワ）支店 普通口座 1 4 8 5 8 3

神戸展での具体的取組みとお願い

（１）神戸展での「特別サポーター」新設

神戸展では PR 役として、特別サポーターを設けました。大連引揚者で映画監督の山田洋次様、満州引揚者で歌手の加藤登紀子様、ジャーナリストの鳥越俊太郎様、神戸中華総商會鮑悦初会長様、立命館大学孔子学院宇野木院長（教授）、京都の聖護院宮城門跡様など、4/6 現在 62 名の方々にご就任頂きました。

（２）歴史絵画家「王希奇教授」からの学び

王先生は、東洋的墨絵の要素を西洋油絵に自然に融合させた画風で評価されています。特に歴史をテーマとする創作を得意とし、その独特な画風とオリジナルな視点で国内外の注目を浴び、既存の流派に属さない独立した芸術家と評されています。なかでも国家金メダルを獲得した《三国志・赤壁の戦い》（合作）、中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト入選作品《長征》《遼瀋戦役 攻克錦州》（合作）および《官渡の戦》などの大型絵画が代表作です。油絵のほか墨絵の《回声》《高原人》《聴雷》などの作品も、全国美術作品展で入選しました。数多くの作品が中国美術館、中国国家歴史博物館、中国国家軍事博物館などに収蔵されています。

私は残念ながら、日本人の著名なプロの歴史絵画家を知りません。改めて満州引揚図を鑑賞する過程で、アジア太平洋戦争敗戦後の海外邦人引揚の歴史について学びました。今

回神戸展 HP のメニュー画面に、「米中協力で実現した日本人難民の帰国」を設けました。そこには立命館大学の佐藤量博士による論文「戦後中国における日本人の引揚げと遣送」を掲載しています。中国からの日本人引揚げ事業は米国主導で行われ、1945年12月には米国と中国国民党・中国共産党との間で、日本人引揚げに関しての三者会議が開催されました。中国国内では国共内戦を一時停戦とし、日本人難民のために陸路が確保されました。米国は船舶を提供し、海路を確保する事により日本人の帰還事業を推進しました。米国と中国による日本人難民の帰還事業には、心より敬意を表するものです。

(3) ポツダム宣言での難民の扱い

引揚げの経緯に関してポツダム宣言(英文)に当たると、(9) The Japanese military forces, after being completely disarmed, shall be permitted to return to their homes with the opportunity to lead peaceful and productive lives. とあります。公式邦訳では、「九、日本国軍隊ハ完全ニ武装ヲ解除セラレタル後各自ノ家庭ニ復帰シ平和的且生産的ノ生活ヲ営ムノ機会ヲ得シメラルヘシ」です。つまり軍人の引揚げは旧日本軍の責任の元で実行される事になっていました。一方で一般邦人の引揚げはポツダム宣言には明記されず、関係国の判断に委ねられることになりました。そのため満州や北朝鮮では、悲惨を極めた引揚げに至った事は忘れてはならないと思います。

(4) 引揚げ者写真集から「遺骨を抱いた男装の少女」が特定！家族構成も判明！更なる私の思い

下記③の「遺骨を抱いた男装の少女」を、王希奇教授は葫蘆島引揚げの写真集から見つけました。その写真の男装の少女は「一九四六」では、下記④の絵画として描かれています。憔悴仕切った難民の中で、睨みつけるこの少年の怒りの表情は何を表すのでしょうか?) 愛する母親を失わせた戦争に対する憎しみは、望郷の思いよりどんなに強かったことでしょうか。

私は「遺骨を抱いた男装の少女」の写真集を、今年2月西宮市立図書館で探し出しました。1970年に毎日新聞社から刊行された「在外邦人引揚げの記録」でした。それには1946年に葫蘆島経由で帰国した少女が成長し、24年後の1970年当時の彼女の写真や様々な個人情報に掲載されていました。写真⑤です。彼女のお名前は山本美津子様(1935年生)で当時は埼玉県在住でした。ご主人は佳伸様(1933年生)、ご長男は伸幸様(1962年生)、ご次男は活俊様(1966生)でした。山本様のご家族を探しています。ご存知であれば情報のご提供をお願いします。探し出して王先生にご紹介したいと考えています。

大作「一九四六」には、他にも涙を誘う人物画があります。「老人を背負う男性」「ぐったりとした赤子に乳を与えようとする母親」「遺影に語りかけ涙を拭う仕草の少年」「負傷者を担架で運ぶ看護婦」・・・日本に引揚げのために、葫蘆島港に停泊する米国船に向かって歩いている数百人の人々が描かれています。

大作「一九四六」では、暗黒の画面に浮かび上がる無数の白くて小さな灯火は、自ら光を放つ「蛍」を表しています。王教授がこの「蛍」を通して表現したかった事は、人間が発する生きる喜びと希望と伺いました。敗戦による悲惨な難民生活から決別し、日本帰還の喜びと期待を表現しているのです。

(5) この世紀の大傑作「一九四六」を、ウクライナ難民が大量に発生している今こそ、世界平和を希求して「ローマ法皇庁・国連本部・ユネスコ本部」で展示したい！

私はこの「遺骨を抱いた男装の少女」の写真③を見た瞬間に、ローマ教皇フランシスコ様が思いを寄せた、米国人写真家の故ジョー・オダネルの「焼き場に立つ少年」（下記写真⑥）を思い起こしました。

政治の世界で日中友好が後退のみならず、同時並行して米国サイドの反中国キャンペーンが喧伝される中、草の根の民間交流では王希奇教授との個人的交流を活かして、米国の意向に忖度せず日中友好を推進したい所存です。

私の夢は「米中日友好」や「人類運命共同体」の証として、この世紀の大傑作「一九四六」をローマ法皇庁や国際連合ビル、ユネスコ本部の大ホールに展示することです。読者の皆様と一緒に実現しようではありませんか！

(6) 自縄自縛の日本経済に助言

神戸絵画展をPRしていく中で残念だったのは、企業経営者側の判断でした。神戸絵画展の開催趣旨には賛同するが、HP やビラに賛同者として名前が掲載される事は避けたいとのコメントが寄せられました。親中企業と見做され、親米反中の右翼から攻撃されると困るとの胸算用でした。そのため寄付への協力は勿論の事、後援や特別サポーターへの就任を固辞されるケースが殆どでした。絵画展とリンクした中国物産展の開催を、関西の百貨店に呼びかけましたが開催困難とのことでした。リスク過敏になりすぎて火中の栗を拾えない、後ろ向きな企業マインドにはガッカリしました。

さて、最近反中国のマスコミ報道により、日本人の中国への敵対心は高まりつつあります。偏向したマスコミ報道により、日本企業は中国でのビジネスチャンスを喪失しているとするキャノングローバル研究所の1月レポートは、「日中国交正常化50周年:日中経済の変遷」です。当レポートは当事者の許可を貰い、絵画展HPの「日中経済関係の変遷と最近の経済状況」に搭載しています。

今年65歳になる私の大願は、100歳になる迄に「東アジア共同体」を構築させる事です。10年後にはGDPで米国を凌駕する超大国中国とは、2000年を超える交流の歴史を大切にしつつ、お互いの価値観を共存させた外交の舵取りが行われるべきです。

神戸絵画展ロゴマークに記されたキーワードの「Beyond50・日中敬隣・Love & Peace & Humanism・人類運命共同体」には、50年前に日中国交回復を成し遂げた、故周恩来首相や故田中角栄首相の感謝の思いを込めて制作しました。その根底には前述の「前事不忘後事之師」（チェンシーブーワンホーシーズィシー）があります。この歴史認識で神戸絵画展を成功させるだけでなく、私の大願である「東アジア共同体」へ向けた新たな展開が始まりました。

読者の皆様！日中敬隣を心に刻み、世界平和を東アジアから構築しようではありませんか！

プーチン様！バイデン様！習近平様！岸田文雄様！どうぞ世紀の大傑作「一九四六」を歩きながらご鑑賞下さい。

とりわけプーチン様におかれては、前述の「遺骨を抱いた男装の少女」が発する怒りの眼差しに対峙できるでしょうか？

「特別サポーター」一覧（敬称略・順不同）

神戸展への自主的応援団として、活動義務のない特別サポーターを設けました。4/14現在で71名の方々にご就任頂きました。

- 1 山田 洋次（映画監督）
- 2 加藤登紀子（歌手）
- 3 鳥越俊太郎（ジャーナリスト）
- 4 窪島誠一郎（戦没学生慰霊美術館「無言館」館長）
- 5 ちばてつや（漫画家）
- 6 孫崎 享（元外交官、評論家）
- 7 早川 篤雄（宝鏡寺三十世住職、ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館館長）
- 8 石田 浄（NPO 京都藝際交流協会 代表）
- 9 宮城 泰年（本山修験宗総本山聖護院門跡）
- 10 安斎 肇（アートディレクター）
- 11 森 一貫（元帝塚山短期大学学長）
- 12 宇野木 洋（立命館大学教授、立命館大学孔子学院院長）
- 13 しりあがり寿（漫画家）
- 14 桂 米團治（落語家）
- 15 飛田 雄一（神戸学生青年センター理事長）
- 16 木村 朗（鹿児島大学名誉教授）
- 17 西岡 由香（漫画家）
- 18 ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン（INMP 名誉ジェネラルコーディネーター）
* INMP: 平和博物館のための国際ネットワーク
- 19 鳩山由紀夫（元首相、東アジア共同体研究所代表）
- 20 寺沢 秀文（満蒙開拓平和記念館館長）
- 21 安井 三吉（神戸大学名誉教授、元孫文記念館館長）
- 22 大類 善啓（方正友好交流の会理事長）
- 23 池田 澄江（中国帰国者・日中友好の会理事長）
- 24 鮑 悦初（神戸中華総商會会長）
- 25 井口 和起（京都府立京都学・歴史館顧問、京都府立大学名誉教授）
- 26 和田誠一郎（弁護士）
- 27 愛 新翼（神戸華僑歴史博物館館長）
- 28 浅野 慎一（神戸大学教授・中国残留日本人孤児を支援する兵庫の会代表世話人）
- 29 大西 広（慶應義塾大学教授・京都大学名誉教授）
- 30 寺脇 研（元文部科学省官僚、映画評論家）
- 31 くるみざわしん（精神科医、劇作家）
- 32 田中 教子（画家、歌人）
- 33 進藤 榮一（筑波大学名誉教授、国際アジア共同体学会会長）
- 34 井上 久士（駿河台大学教授、日本中国友好協会会長）
- 35 海江田万里（衆議院議員、日中友好議員連盟副会長）

- 36 安齋 知行 (画家、中国引揚者 (今年 101 歳))
- 37 前川 喜平 (元文部科学省事務次官、現代教育行政研究会代表)
- 38 陳 昆儀 (神戸華僑総会理事長)
- 39 手塚 孝典 (ドキュメンタリー制作者、信越放送ディレクター)
- 40 井戸 敏三 (前兵庫県知事)
- 41 宍 冬瑩 (水墨画家)
- 42 張 述州 (神戸中華同文学学校校長)
- 43 王 秋菊 (中国東北大学日本語科長)
- 44 田中 優子 (法政大学前総長)
- 45 古海 建一 (旧東京銀行元役員、一般社団法人国際善隣協会元理事長)
- 46 釈 徹宗 (相愛大学 (新) 学長)
- 47 石川 康宏 (神戸女学院大学教授)
- 48 奥田 靖二 (浅川金毘羅神社宮司)
- 49 ナターシャ・グジー (在日ウクライナ人歌手、バンドウーラ奏者)
- 50 小野 元裕 (日本ウクライナ文化交流協会会長)
- 51 ラサル石井 (俳優)
- 52 池田香代子 (翻訳家)
- 53 玉岡かおる (作家)
- 54 張 文乃 (NPO 法人国際音楽協会理事長)
- 55 小松 昭夫 (小松電機産業株式会社代表取締役)
- 56 岡部 芳彦 (神戸学院大学経済学部教授 博士 (歴史学・経済学) 神戸学院大学
国際交流センター所長)
- 57 陳 鉄城 (遼寧省中日友好協会会長)
- 58 胡 金定 (甲南大学国際言語文化センター教授)
- 59 藤原 作弥 (元日本銀行副総裁、エッセイスト、ノンフィクション作家)
- 60 加藤 聖文 (歴史学者、人間文化研究機構国文学研究資料館准教授)
- 61 大島 満吉 (葛根廟事件生存者、興安街命日会代表)
- 62 丹羽宇一郎 (公益社団法人日本中国友好協会会長、元駐中国特命全権大使、元伊藤
忠商事代表取締役)
- 63 中川 十郎 (日本ビジネスインテリジェンス協会 理事長)
- 64 村田 光平 (元スイス大使)
- 65 藤島 博文 (日展会員)
- 66 平田オリザ (劇作家、演出家、兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学初代学
長)
- 67 宇都宮健児 (弁護士、一般社団法人反貧困ネットワーク代表)
- 68 谷口 誠 (元国連大使、元ユニセフ議長、元 OECD 事務次長)
- 69 笠原一九司 (都留文科大学名誉教授、2020 年「憲法九条と幣原喜重郎」を上梓)
- 70 渡辺 えり (劇作家、演出家、俳優、一般社団法人日本劇作家協会評議員 (前会
長))
- 71 早乙女勝元 (作家、東京大空襲・戦災資料センター名誉館長)



① 「一九四六」の全容（於：2021 高知展）



②中国葫蘆島市「引揚記念碑」



③遺骨を抱いた男装の少女」の写真



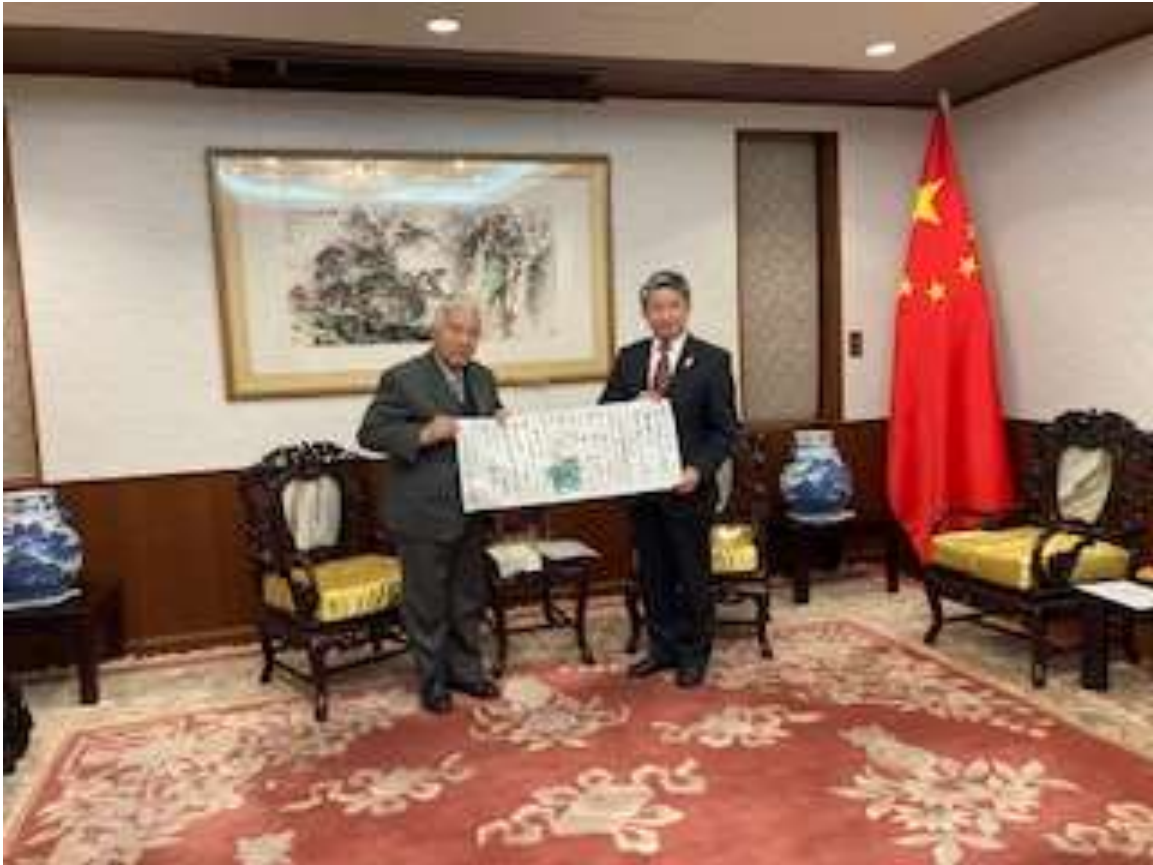
④「遺骨を抱いた男装の少女」



⑤ 「焼き場に立つ少年」の
写真



⑥ 毎日新聞社刊「在外邦人の引揚の記録」より



⑦薛大使級総領事（右）に親書を渡す安齋代表
（於：中国大使館大阪総領事館 2022. 1. 6）

（みやはら・しんや：1957年生まれ。1957年生まれ、兵庫県宝塚市在住）